

千葉県バイオ・ライフサイエンス・ ネットワーク会議 令和6年度 総会・事例報告会

6月18日(火)
13:00~16:00
参加費無料

環境DNA分析技術を利用した生物調査 ～ 原理・現状・展望 ～

環境DNA分析は、生態学調査の網羅性と煩雑性を補完できる革新的な技術として注目されている。環境DNAとは、生体から土壌や水、大気などの環境中に放出されたDNA断片のことで、環境サンプルから採取された環境DNAを解析することで、そこに生息する生物の種類や量、多様性などを明らかにできる。環境DNAを用いた生物調査は、従来の調査と比べて人的資源や費用の負担が圧倒的に少なく、生態系への負荷もないことから、ここ数年で急速に広まった。その中で、サンプルの取得方法やデータ処理手法、また、取得した生息種情報データの様々な活用方法などが検討され、研究の枠を超えて、環境評価などあらゆる方面への応用が精力的に進められている。本報告会では、環境DNA技術の普及に貢献したMiFish法の原理と展望、および、環境DNA分析の環境調査への適用事例について紹介し、その可能性について俯瞰する。

開催日時 2024年6月18日(火) 開場 12:45 開始 13:00~16:00(終了予定)
開催方法 会場開催のみ:ペリエホール(JR千葉駅直結・ペリエ千葉7F)
(千葉県千葉市中央区新千葉一丁目1番1号)

<https://www.perie.co.jp/chiba/periehall/access/index.html>

参加申し込み

事前登録制(申込期限:6月14日(金)まで)

以下URLまたは右のQRコードからお申込みください。

www.kazusa.or.jp/workshops/cbln/cbln_r6_index/



プログラム

【総会】

13:00~13:30

- ① 主催者挨拶
- ② 令和5年度事業報告・令和6年度事業方針

【事例報告会】

13:30~14:00

環境DNAメタバーコーディング法:
バケツ一杯の水から棲んでいる魚がわかる技術
千葉県立中央博物館 主任上席研究員
宮 正樹

14:00~14:30

環境DNAを利用した生物観測ネットワークANEMONEについて
(公財)かずさDNA研究所 ゲノム事業推進部 遺伝子構造解析グループ 研究員
山川 央

14:30~14:45

休憩

14:45~15:15

地域住民と連携した環境DNA技術の活用事例について
神奈川県環境科学センター 調査研究部 主任研究員
長谷部 勇太

15:15~15:45

実務の現場で環境DNAを使うために必要なこと
国立研究開発法人 土木研究所 特任研究員
村岡 敬子

15:45~15:50

閉会の挨拶

(敬称略)



千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議

千葉県・公益財団法人かずさDNA研究所 共催

事務局
(公財)かずさDNA研究所
企画管理部事業推進課
TEL.0438-52-3957
E-mail bio-network@kazusa.or.jp